

## 特別講演 2

# 「バナナとアイスクリームで考える慢性便秘の問題点と解決法」

東北大学名誉教授／公立黒川病院管理者

本郷 道夫 先生

健康感を的確に表す言葉に、「快眠・快食・快便」がある。病歴記載の基本的な要素でもあり、また、健康関連 QOL の重要な要素でもある。便秘はこのような基本的健康感構成要素のひとつであり、日常的症状であるものの、健康感保持のためには重要な症状である。便秘は日常的な症状／病態でありながら、正確に定義することは困難である。近年の機能性消化管障害の研究の中から新たな定義が提唱されるようになり、これまでの経験則に則った治療から科学的治療選択の時代に入ってきた。国際的研究グループによるガイドラインの策定が進められてきた。その中で、慢性の機能性便秘は、大別して通過遅延型便秘と排出障害型便秘の二つに分類するようになった。

ガイドラインの策定にあたっては EBM による検証も必要となる。さまざまな治療薬の中で治療薬としての効果が確認され、推奨レベルの高いものにルビプロストンがあげられている。ルビプロストン（アミティーザ<sup>®</sup>）はプロスタグランジン誘導体のプロストン系化合物で、小腸粘膜の CIC2 チャネルを活性化させて腸管内腔への Cl イオンの分泌を促し、その結果、腸管内腔に水分を貯留する作用を持つ薬剤で、便形状の改善と速やかな排便を促す。

最近の研究では、腸内微生物環境と便通、便通と腸内粘液分泌に関する関心が高まっており、その研究の一端を併せて紹介する。標題の意味は当日、説明する。